

津川一會津区北西部の中新世堆積盆地形成トレンドとインバージョン Structural trends and tectonic inversion in Miocene sedimentary basins in the Tsugawa-Aizu province, Niigata prefecture

成沢 紗也佳^{1*}; 栗田 裕司²
NARISAWA, Sayaka^{1*}; KURITA, Hiroshi²

¹ 新潟大学大学院自然科学研究科, ² 新潟大学理学部地質科学科
¹Niigata University, ²Niigata University

新潟県北東部に位置する津川・三川盆地は、主にグリーンタフからなる中新世前期～中期の堆積盆地である。既存研究では、基盤中にできたNW－SEの段差が津川盆地を作ったと強調されている。本研究は、新潟県阿賀町三川地域に分布する第三系を対象に野外調査を行い、堆積盆地の発生～発達過程を明らかにすることを目的とする。本調査地域に分布する新第三系を下位より、鹿瀬層・津川層・新谷層・五十島層（新称）に区分した。

最下位層である鹿瀬層と津川層は堆積相解析の結果からハーフグラベンまたはグラベンを埋積したと推定され、その分布は、N－SまたはNNE－SSW方向のマップスケールの断層で規制されている。一方、NW－SE方向の断層は基盤の小規模な段差や小断層を形成したり、ダイクの貫入方向に影響を与えている。つまり本地域の盆地形成には2方向の要素が関与したと言え、そのうち、主要な方向性はN－SまたはNNE－SSWである。

これらの新第三系は、現在その分布が逆断層で断たれ、基盤と接していることが多い。こうした逆断層が rift-border fault が推定される場所に位置していることは、2方向の要素のうちN－SまたはNNE－SSW方向の rift-border fault の再活動によってインバージョンが起こったことを示唆する。このとき再活動した断層の方向性からみて、本地域の盆地形成期は新発田－小出構造線の影響を受けていた可能性がある。

キーワード: 新潟堆積盆地, 中新世, リフト, 構造トレンド, インバージョン
Keywords: Niigata sedimentary basin, Miocene, rift, structural trend, inversion